

# 保育者の同僚間の「巻き込まれ」に関する研究

A study on 'getting involved' among the childcare worker's colleagues.

迫 共

SAKO Tomoya

浜松学院大学

Hamamatsu Gakuin University

Key words: childcare worker, emotional labor, getting involved

## 目的

保育者を対象とした感情労働研究において、対同僚間のコミュニケーション場面をもとにした研究は、これまで十分に行われていない。本研究では全国の認可保育所と認定こども園で勤務する保育者5名（「人間関係トラブル」を経験したことがある）を研究協力者として、「保育労働のやりがいと困難さ」について聞き取りを実施した。聞き取り結果をもとに、保育者の対同僚場面での感情労働の特質について探索的な研究を行うことを目的とする。

## 方法

「人間関係トラブル」を経験したことがある保育者を対象として、インターネット上で研究協力者を募集した。勤務地域、勤務先施設種別、勤務年数などが偏らないように調整し、5名の研究協力者を選定した。研究協力者に対して、「保育労働のやりがいと困難さ」をテーマとした半構造化面接を行い、エスノメソドロジーの手法で検討を行った。

**インタビュー回数:** 1回1時間を目安とし、必要に応じて2回2時間まで実施。

**実施時期:** 2016年4月～10月。

**研究協力者の属性:** 下記の表を参照。

表記名	勤務先施設種別	職位	勤続年数
A	社会福祉法人立保育所	主任保育士	10年以上
B	幼稚園型認定こども園	主幹教諭	10年以上
C	幼稚園型認定こども園	保育士	3～5年
D	社会福祉法人立保育所	保育士	5～7年
E	株式会社立保育所	保育士	1～3年

## 結果

Aさんは、退職希望をだす保育士に慰留をすることがあり、その際、自分の本心をコントロールする感情労働をしていた。Aさんは上司との面談において自身の心情を吐露することもでき、やりがいが得られていた。

Bさんは、園長と保育者との間で板挟みになり、「退職を何度も考えている」が、自分が退職すると、職員組織が維持できなくなると考え、板挟みの立場に留まる。Bさんは園長に心情を明かすことも、同僚に助けを求めることもできない状態にあった。

Cさんは、家庭の事情で退職を希望したが慰留され、子ども達と接する中で得られる仕事のやりがいを放棄する決断がつかない。保育には困難感と切り離せないやりがいがあることが伺えた。

Dさんは、発達障害児の加配保育士である。自分なりの工夫が「はまる」状態にやりがいを感じるが、主担任保育士の指示に対する違和感を表明できないでいた。

Eさんは適応障害になり退職した。園長はEさんを同じ価値観を持つ仲間と捉え、強く励まそうとしたが、やりがいを充分に感じる前に心身の症状に苦しんだ。

## 考察

対人援助職の感情労働場面に共通してみられる、援助対象の感情への「巻き込まれ」が、保育者の対同僚場面にも表れやすいように思われた。同僚や管理職の要望に巻き込まれることは、職場の方針への適応行動でもあるため、「巻き込まれている」と意識することが難しい。保育者のみならず対人援助者の同僚間において起こる密接なコミュニケーションの質について、今後より広範囲に検討を進め、その中で保育者独自の特徴を提示する必要があると考える。

なお本研究は、保育現場一般の特徴ではなく、「人間関係トラブル」が起こりやすい保育現場の特徴を明らかにしており、「人間関係トラブル」が起こりにくい保育現場の特徴は十分に扱えていない点に注意が必要である。

## 主な参考文献

- Hochschild, A. R., 1983, *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*. University of California Press.
- 諏訪きぬ (監修), 戸田有一, 高橋真由美, 上月智晴, 中坪史典ほか, 2011, 『保育における感情労働—保育者の専門性を考える視点として』, 北大路書房.
- 吉岡隆 (編著), 2000, 『共依存』, 中央法規出版.
- 久保田聡美, 2006, 「ストレスマネジメント その理論と実践 第5回セルフケア (3) 心理的距離のとり方」, 『週刊医学会新聞 第2696号 2006年8月28日』.
- 迫 共, 2020, 保育者の対同僚場面における感情労働の考察「人間関係トラブル」経験のある保育者の語りをもとに, 乳幼児教育学会第30回大会抄録.